

子どもといっぱい触れあい、いっぱい見て、いっぱい失敗して、 豊かに学んでください

町田市立鶴川第二中学校 宮下 聡

(1) 子どもといっぱい触れあうことを

今までに、ボランティアとかで中学校へ行って、子どもたちと一緒に何かやったもしくはやっているっていう経験を持っている人、手を挙げてみてください。では、指導者として中学の教室に入るのは初めてという人…。了解です。ちょっと緊張するでしょう。制服、制帽1年生、大きく変わる2年生、どうにもならない3年生とあって、3年生になると身長が180くらいになる子もいるからね。自分にできるかなと心配している人も、もしかしたらいるかもしれません。大丈夫です。彼らはかみつきません(笑)。

私が教育実習をやったのは、もう四十年近く前になるんですけど、今日のレジュメにそのころの思い出をちょっと書きました。楽しかったです。私も皆さんと同じで教育学部の出身ではありません。理科の教員ですから、理学部の出身です。佐貫先生がおっしゃったような丁寧な指導は受けなくて、現場にポンと入りました。近くに受け入れてくれる学校がなくて、実習先は自宅からすごく離れた中学校でした。だから、毎日通うことができなくて男3人で学校の近くに部屋を借りて共同生活をしながら3週間実習しました。毎日、毎日、楽しくて、今日こんなことがあったね、あんなことがあったねと語り合い、夜、酒を飲みながら実習簿を書いたり、指導案を書いたりしていました。合宿みたいで本当に楽しかったです。

そして何よりもナマの子どもたちに触れているということが、楽しくてたまらなかったですね。テレビや何かで見ている子どもじゃなく、目の前にいて直接おしゃべりできるんです。これが最高に楽しかったです。

皆さんも3週間の実習の中で、ナマの子どもに触れるという体験をぜひ大事にしてほしいなと思います。

実習生を見ていて損してるなと思う人がいます。どういう人かというと、学校で子どものいる時間に実習簿を書いている人です。子どものいる時間に教材研究して、子どものいる時間に指導案を書いている人がいるんですよ。そんな家でできるでしょ。授業研究だったら、実習前の今からでもできるでしょう。子どもがいるところでしかできないことをやったほうが絶対いいと思う。もしかして学校の先生にならない、教採を受けないという人、実習して教員免許だけは取っておこうと思っている人もいるかもしれません。でも、それでもいいです。人生の中でナマの子どもに教育指導者として触れるなんていうチャンスはそうそうあるものではありません。だから、子どもがいる時間に子どもと触れ合わないで、ほかのことをしているなんて、絶対もったいない。子どものいるときには子どもと触れ合いなさいと言いたいですね。子どものいない時間帯にできることは、子どものいないときにやる。子どものいるときにしかできないことを実習の間にやってほしいと思います。

私はその実習期間中、あらゆるチャンスを

使って子どものいるところにいました。楽しかったです。部活、放課後のおしゃべり、いろいろなことをやりました。けっこう人気があったと思いました。でも、それはベテランの先生の人気とは違って、物珍しさというのかな、この年になった先生よりは、年齢が近くちょっと珍しいから、若い先生だし、ヤングアイドルにまわりつく子どもたちのようなかたちで人気があったんですね。ちょっと鼻が高くなりましたね。

でも、そのときに、いや、これは本当の力じゃないと思った。よくあるじゃない。タレントさんなんかでもワッと人気が出るけれども、大した力もなくて、物珍しさだけでバッと人気が上がって、数年したらパッとなくなっちゃうっていうのが…。でも、私はそれでもいいと思うんです。実習期間の3週間は、そんなヤングアイドルの気でもいい。子どもたちが来てくれるんだったら、その子どもたちと触れ合って、子どもたちのナマの声を聞いたり、そして子どもたちの感覚をつかんだりしてみたらいいんじゃないかな。それはきっと教師になってからではつかめない情報、できない体験かもしれないと思います。

(2) 教育実習とは学校に迷惑をかけること

迎える立場、現場からみたらどうでしょうか。よく、「今日から教育実習をする〇〇です。ご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします」と言う人がいます。それは大きな間違いです。「ご迷惑をおかけするかもしれませんが…」じゃないんです。実際、「迷惑」なんです。

昨日も実習生と打ち合わせしていた国語の先生が、実習が始まる前にすごく悩んでいたんです。だって定期テストがあるでしょう。授業時間が足りないわけ。そうすると実習生に授業をしてもらおうと、その時間、進まなく

なっちゃうでしょ。その授業のままで試験に出すわけにいかないし、どうしようかなと話しているわけです。だからといって授業をさせないわけにいかないし、どうしようかという話をしていたんです。実習生とは普通の顔で打ち合わせをしていました。けれども、そういう意味では「迷惑」なんです。

じゃあ、実習生を受け入れるのがイヤかといったら、全然イヤじゃないんですよ。だって私たちもそうやって「迷惑」をかけて、お世話になって、勉強して学校の先生になったんだから。そして皆さんにはそうやって勉強してもらって、私たちの跡を継いでいってもらうんだから。だから迷惑は想定内。だけど、大いに迷惑をかけてもらって、大いに勉強してもらって、そしてぜひ子どもたちにとっていい先生になってもらいたいと思います。だから、どうぞ失敗してください。迷惑かけてください。そんな思いです。

私も生徒指導の主任なんかやっているときに、よく実習生の人と話しましたが、「教採を受けるの？」と聞くと、「いえ、私は受けません」という人がいました。でも、私はそれでいいと思っています。父親になったり、母親になったりするときに、この教育実習の3週間は絶対役に立つから。だから、そういう意味でも私たちは皆さんを喜んで迎えます。そして学校の理解者を一人でも増やすという意味もあるからです。ぜひ学校のナマの姿を見ていただきたいと思います。

3週間の実習の中身は、もう散々ガイダンスで聞いているかなとは思いますが、一応ざっとおさらいしてみます。たぶん最初に学校長からの話があるでしょうね。本校の概要とか方針、副校長の話、教頭先生という地域もあるでしょうが、東京では副校長という名前になっています。教務主任の話、教育課程についてお話をされ、生活指導主任、これは地方によっては生徒指導主事なんていたりします。こういう話は必ずあると思います。そし

て指導担当の先生、これはたいてい教科の先生と学級担当の先生がいると思います。その先生から話を聞くことになると思います。

それから実際に学級についていって、実習が始まったら、朝の会、帰りの会、それから学活とか道徳、自分の教科の授業のほかにそういう体験もすることになると思います。

そして、最後の週はいよいよ研究授業です。けっこう緊張します。私も緊張しました。もう大昔ですけども。そのときに担当の先生が来て、いっぱい叱られるだろうなと思っていたので、自分であらかじめどういふ点がまざったかということは言うようにして臨んだりとか、いろいろな緊張と覚悟をしたものです。きっと皆さんも緊張すると思います。まあ、こんな流れで3週間が進んでいきます。

(3) 鉄腕アトムと鉄人 28 号

さあ、皆さんが会おう中学生、中学時代とはいったいどういう時期なのか、それをこれからちょっとお話をしたいと思います。実は私は、法政の多摩のほうで生徒・進路指導論という授業をやっています。その授業の中で、いじめの問題とか今日の学校の中で教師たちが向き合わなきゃならないさまざまな問題を出すと、その受け止め方はさまざまなんです。

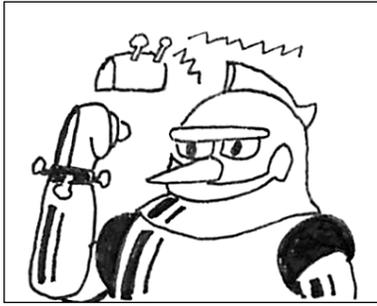
どういうふうにさまざまかというと、非常に深刻ないじめの問題や、授業がうまくいかない問題、そういう問題を出すと、ある人は私の中学時代よりまだましですと言います。でも、ある人はそんなのは特別な例でしょうと言います。中学はそんな大変なことばかりではなくて、もっといいこともいっぱいあるはずです。いい話をもっとしてくださいという声もあります。

皆さんは自分の経験してきた中学時代をもとに今の中学時代をイメージして、教育実習に臨むことになるだろうと思います。でも、必ずしもそれと同じとは限りません。それか

ら皆さんが会おう子どもたちも、皆さん自身の中学生時代とは全然違うだろうと思います。皆さんは法政大学に入ってきたわけですけども、とんでもない、大学どころか、高校にも行く学力のない子だってクラスの中にはいるわけです。でも、そういう子どもたちをひっくるめて中学の教師たちが目指しているものは何かというと、それは自立なんですね。子どもが自立をしていくということです。

世間の荒波って言うじゃないですか。子どもたちはやがて成長して、社会に出ていくわけです。そして社会の荒波にもまれていくわけです。その荒波にもまれておぼれて死んじゃったら意味がないわけですよ。その社会の荒波を泳ぎ渡っていかなくちゃいけないわけです。自分の力で泳いでいく。そういう力を付ける。もし自分の力だけでは泳ぎ切れなときには、ほかの人に助けを求めて、ほかの人の助けも借りながら泳いでいく。あるいは周りに助けを求めている人がいたら、その人に手を貸して一緒に泳いでいく。こういう力を身に付けることが教育で目指すことだと私は思っています。

今日は、本当はここに二つのロボットを持ってくるはずだったんですが、すっかり忘れてしまいました。鉄腕アトムと鉄人 28 号です。アトムはだいたい知っていると思うんですが、鉄腕アトム、知らない人…？。大丈夫ですね。鉄人 28 号を知らない人…？。画家が来ました。水野先生が書いてくれています。私が子どもころに大変ヒットしたロボット漫画の主人公です。今、鉄人 28 号を描いてくれています。さすがだ。うまいんだよ。ありがとうございました。拍手！（拍手）



子どもにこの鉄人 28 号と鉄腕アトムの違いは何かと聞くんですよ。私は今年 1 年生を担当したので、ついこの間も、聞きました。どこが違う？ と聞いたら、何て答えると思いますか。アトムは髪の毛があるけど、鉄人は髪の毛がないとかね、いや、これはモヒカンだとか、いろいろ言ったりしますけど、だいたい知ってますね。アトムは自分の頭で考えて判断して行動する。意思も感情もあるロボットなんです。それに対して鉄人 28 号はリモコンで操られるロボット。「みんなはどっちがいい？」と聞くと、中学 1 年生はみんな鉄腕アトムのほうが良いと言います。だれかの言うとおりにリモコンで操られて、僕は本当はそれをしたくないのに、これをしろと言ったら、それをしなければいけないとか、そういうふうにするのはいやだと言いますから。だからみんなアトムが良いと言います。

でも、ずっとみんな、そういうふうには素直に言うかといったら、2 年生くらいになると、いや、鉄人のほうが良いと言いますよ。自分で考えるのは面倒くさいからとか、憎たらしいじゃないですか。この憎たらしいのが中学生なんです。素直に言うことを聞いて、大人の思うとおりに答えを出してくれるのは中学 1 年生くらいまではオッケーですけども、2 年生くらいになると憎たらしくなります。

しかし、やがてそうはいつでも、自分の意思とちゃんと向き合って、そして自分の意思に基づいて行動するように変化、成長していくわけです。それが自立ということなんです

ね。自立というと、いろいろな自立がありますけれど、私は二つの自立についてちょっとお話ししたいと思います。一つは身辺自立、もう一つは思春期の自立、この二つです。

(4) 「反抗期」?

反抗期という言葉聞いたことがありますか。小学校の高学年から中学生くらいは反抗期真っ盛りですよ。だから、ああしなさいと言ったらいやだとか、こっちへ来なさいと言ったら、うるせえとか、チャイムが鳴って教室に行こうと思ってトイレの前を通ると、そこに集まっているグループがいて、「おいおい、チャイム鳴ったぞ。教室へ行け」「は？ あんただれ」と聞いたりね。「いや、だれ？ じゃねえだろう。授業が始まったんだから行けよ」「知らねえし」「知らねえじゃねえだろう、お前。もう始まってんだよ」「死ね」。言ったことある人…？。「死ね」、いますよ。本当は言ったことあるでしょう。

こういう言葉を言われたら、本当ムカつきます。あと「じじい」、何度言われたかわかりません。女性も「ばばあ」っていうのは、しょっちゅう言われていますね。でも、いちばん心に突き刺さったのは「ばばあ」じゃないです。「宮下さん、ばばあは許せる。今日のは許せない」「なんて言われたんですか」「老いぼれ」(笑)。本当にいろいろなことを言うから。ムカついて、「なんだ、その態度は」とか言うと、「キレてるし」とか言われて、またそれでムカつくんだよね。

あんまり大きい声じゃ言えないけど、うちに来た若い先生、今年 2 年目の先生かな、女の先生、すごくかわいい先生です。その先生なんか去年来たときにさっそくやられてたよ。「先生、Cカップ？」と言われて…、その先生、何て答えたと思いますか。「ありがとう」と答えたらしいですよ。大したもんですね。

隣にいる女の先生、この先生は超ベテラン

のすばらしい国語の先生ですけど、ぶちギレのある男の子に、男の先生が注意したら、「なんだ、このやろう」というふうになる。この状態でその先生が行って、手を握ってあげた。そして、手をなでなでしてあげた。そうしたらまるでネコが喉のところをこすられてゴロゴロとなるみたいになっちゃった。それでも尖がったまゆ毛はまだおさまらなくて…、先生に向かって言った言葉が…、「貧乳」。

超ベテランのもうお母さん先生ですから、そんなにむきになって言い返すことはないけれど、「傷ついたわ。でも、本当だからしょうがないけど」と言っていました（笑）。本当に失礼なことを何でも言うよ。だからそれをまともに受け止めていたらだめね。

反抗期というのは、中学校の教師が向き合う宿命的な問題ですから、これと向き合うのが辛かったら、きつとたぶんもたないね。では、どうしたらいいか。私の今日の話はそういうふうに言われてもムカつかないで、子どもと向き合うための方法、極意、それは一つだけです。目線を変えてものを見ることができかどうかということです。

（５）目線を変える

目線と視線という言葉は似ているのですが、私は視線と目線を区別しているんです。何を見るかというのが視線です。「あの人の視線がまぶしいわ」なんて言うじゃないですか。もう一つの線、目線という場合、それはどの立ち位置からものを見るかということだと思っています。だから上から目線とか、教師目線とか言うじゃないですか。皆さんは今、学生目線でしょう。でも、間もなく教師目線で子どもたちに接しなければいけないことになる。反抗期という言葉は大人目線の言葉です。つまり、素直に言うことに従う。ちゃんと言うことを聞いて、大人を敬い、教師を敬いというのが当たり前だと思っていると、それに対

して反抗するから反抗期と言われる。

でも、子どもの側からこの現象を見たら、どういうふうに説明できるだろうかと考えてみると、また違った風景が見えてくるのではないかと思います。今日、その極意を全部授けるわけにはいきません。時間がないから。だけど、教育実習に行ったときには、ぜひそうやって見てきてください。最初はたぶん先生の授業を見ます。でも、次は自分が教壇に立ちます。もしそのときに、自分が向こう側に座っていたら、今の自分はこういうふうに見えるかなというふうに見てみるといろいろなことが見えると思います。

反抗期というのは、身辺自立と思春期の自立の段階だと思います。今の学校の困難というのは、当たり前のことができない。たとえばチャイムが鳴ったら教室に入って席に着いて、先生が来るのを待っている。教科書もノートもちゃんと忘れずに持ってきて机の上に出してある。そして提出物があったら期限までに出す。そのこともできない子がいるんですよ。だいたいプリントなんか家に持っていきなさいと言って渡したって、家に届きませんからね。大変郵便事情が悪いんです（笑）。ヤギさん郵便というような感じで、なかなか届かない。これが当たり前だと思っていたら頭にきます。ブチッと切れます。当たり前のことすらできないとんでもない子ですからね。

それから、目を離したらとんでもないことをやりますよ。昨日、体育祭の選手決めをやっていたんです。そうしたら、なんとか方式といって、ちょっと忘れちゃったんですけど、うちににぎやかでとんでもない子が一人いるんですけど、私が「はい、じゃあ、これやってくれる人」と言ったら、その子が、「おれやる」と言う。そうすると「おれやる」「おれやる」とみんな次々に言う。知ってますか？こういうの…。こんなふうにどんどん言うてくわけよ。みんなそのノリでどんどん言うていて、最後の狙っている子が「やる」って言

った瞬間にパッとみんな引くわけ。そうすると、その子は「おれ？」となって、その子にやらせるという、これははじめのハイレベルなテクニックですね。「だって、お前自分でやるって言ったじゃねえか」。引けなくなる。

こんな感じで、ちょっと目を離すととんでもないことが起きて、なかにはもう取り返しのつかないような失敗になることもあります。たとえば目を離していると、休み時間にワラッと遊んでいたら、自分が早く階段を下りたかった。目の前をだれかが歩いている。邪魔だ。ドンと押したらゴロゴロと行って大げかになっちゃう。

たまたまそのちょっと下にもたもた歩いている女の子がいて、そこにドスンとぶつかったいじめられっ子は、それで自分がけがをすることは免れたものの、女の子にぶつかって、女の子からすごく怒られて、また落ち込んだとか。これは取り返しがつかない事故じゃないけど。あるじゃないですか。屋上からおっこちゃったとか、ガラス割っちゃったとか、窓伝いに隣の教室行こうと思ったら、手をすべらせて4階からおっこちゃったとか、こういうことが今の学校では起きますからね。

それから、ケンカして殴るのだって、皆さんのころはどうでしょうね。私が教師になりたてのころは顔面は殴らないとか、いろいろなルールがあったんですけども、そういうのもなしにやりますから本当に大変です。とにかく当たり前のことができない。取り返しのつかないことが起きるといことがあって、教師はいつも追いかけているんですが、なぜそんなことが起きるのかというと、やっぱりね、子どもが先の見通しを持って、今を判断するだけの力を持っていないからというふうには私は思います。

一人ひとりが「どうしてそんなことをしたの」と言うと、「いや、別に」と言います。皆さん、「いいじゃん」とか言ったことある人…、いませんか？ 「まずいだろう、それ。やめた

ほうがいいんじゃない」「いや、いいじゃん。みんなやってるし」とか。「なんでやってるんだよ」「いや、別に」とかと言いませんか？ 中学生はけっこう言いますよ。アメなめたり、ガム食べたりしてね、先生から注意されて、「なんでお前はガムなんか食ってんだよ」「いや、別に」「学校でガム食べたらずいだろう」「いいじゃん。みんなやってんじゃん」とか言いますよね。説明つかない行動をして流されていっちゃう。

こういうのはどうしてかといったら、大人たちが子どもたちに「君はどうしたいの」「どうしてほしいの」というふうに聞くじゃなくて、ああしなさい、こうしなさいでどんどん指示を出しちゃっているから、まるで鉄人28号のように指示待ちになって、そして言われたら、そのとおりにやる。やりたくなかったらうまくごまかす。そして見ていないところではズルをする。

こういうような状態になっているわけなんですけど、多くの中学では、今とても忙しいですから、学校ではああしなさい、こうしなさいがいっぱいあふれているような状況になっています。子どもたちが一人ひとり、自分はどうしたいのか、先生にどうしてほしいのか。今自分は何がいやで、どうしたらよくなるのか。そんなことをゆっくり考えている時間がないくらい大変ですけど、もし実習に行ったら、大変だなと思われる子どものなかに、ちょっと目線を変えて、この子は本当はどう思っているんだろうかと見てみてください。

(6) 子どもの内面の世界をとらえる

友だちにイヤなことを言ったり、やったりしている男の子がいました。なかなかやめません。そしてその子に「お前、いいかげんにしろよ。やめろよ」と言って、ポンと肩をたたいたんです。そうしたら、その子どうしたと思います？

「うるせえな」と言うかと思ったら、違ούνです。パンじゃないです。ポンですよ。「ダメだ、お前」、ポン。とやったんですよ。そうしたら「あいたたた」。すごいんです。1年生に入学してまだ1週間かそこらのことです。小学校のころからその子は何かあったら先生からそうやって強く叱られて、そこから逃れるために、そうやって話をすり替えて、そして暴力だ、暴力だときっとやってきたのかもしれないなと思います。

そして、ちゃんと話をしようと思って、「だめじゃないか」というふうに言うと、シュンとした顔ではなくて、私がこっちの方から話をしていると、こっち側の友だちに向かってニヤッと笑う。大人から見たら、すごくムカつく態度です。そういう顔をしました。

私は若いころだったら、「なんで笑ってるんだ」「何がおかしいんだ」「その態度は何だ」と言ったと思いますが、そのとき思いました。この子は小学校のころからずっとそういうふうに、先生から声をかけられるたびに何か叱られる。お前のここがいけないというふうに言われてきたんだろうなと思いました。

たまたまその子とおしゃべりする機会があって、「お前さ、みんなからどう思われてると思う？」と言ったら、こう言っていました。「悪い子だと思われてると思う」。1年生ですよ。「悪い子？ どういうこと？」と聞いたんですよ。そうしたら、「だって人にイヤなことを言うし、イヤなことやるし、友だちをぶつたりするし、勝手に人のもの取って使っちゃうし、返さないし」「十分に悪いことだな。でも、お前は悪いことはするけど、悪い子なんかじゃないよ」と言ったら、最初は横を見てうすら笑いをしている姿だったんですけど、だんだんまじめな顔になって、神妙な顔つきになってきていました。

教師から見たら、すごく憎たらしくて、生意気で素直じゃないムカつく悪い子に見える子も、その子の立場から見たら、きっと違う

景色が見えるんじゃないでしょうか。こんなふうにも視線を変えてみるとすごく愛おしい子どもの姿がみえてきます。中学生の中には、見かけ上はすごく憎たらしい行動を取る子もいますけれども、その子がどんなものを内面にためているのかなと考える回線をつくると、子どもはすごく愛おしいです。

反抗期という言葉は大人目線で見て、思い通りにならないから反抗期です。でも、子ども目線から見たら、自立のために今いろいろな課題と向き合って、もがいている姿というふうには受け止めることもできます。皆さんがこのあと出会う子どもたちはどんな子もきっとそういうものを持っていると思います。大人から見たら悪い子というふうには思われる子も、いい子と見える子もそんなに単純じゃなくて、その中を見ていくと、いろいろなものがきっと渦巻いているはずですよ。もしそんなことの一部でも見てとることができたらいいなというふうに思います。

私は子どもたちを鉄人 28 号じゃなくて鉄腕アトムのように自分で考えて行動できる子どもたちにしていきたいなと思って、子どもたちにもそのことを要求しました。ということは、ああしなさい、こうしなさいと、何でもかんでも指示を出しちゃうんじゃなくて、君はどうしたらいいと思う？ どうしてほしいのということを子どもたちに投げ返して決めさせるということが大事です。

でも、学校というところはけっこう忙しくて、先生はそんな時間はありません。授業が始まったとき、「先生、教科書忘れまして」と昨日も来ました。昔の私だったら、「えっ、またお前、しょうがないな、もう今月に入って3回目じゃないか。困るだろう。見してもらえ。おい、A君、見してあげなさい。見してもらえ。早く席戻れ」、こういうふうには言っていました。

さっき、「どうしてガム食べてるの」「いいじゃん、別に」、周りに流されて自分で説明の

つかない行動をとるような子どもたちの問題を言いましたが、だれが子どもたちをこういうふうにしたのか。私のさっきの、「困るだろう。しょうがないな。見してもらえ。席へ戻れ」、これだと思いましたね。

だって、そうでしょう。彼は忘れ物をしたので、先生に言わなくちゃいけないと言われていたから言いに来ただけなんです。なのに、困るだろうって勝手にこっちが先取りしちゃいましたよ。それから見せてもらえば問題解決できるということで、見せてもらいなさいと指示を出してしまいましたね。さらに、だれに見せてもらったらいいかということでは、A君だということまで指定して、その上、本人に代わってA君に代理人交渉までして全部話をつけました。そして次にどんな行動をしたらいかといったら、席に戻りなさいという最後の指示を出して、彼はそのとおりに行動しました。

彼が自分で決めたことといえば一体なんでしょう。まず、私の方を向いているわけですから、席に戻るためには回れ右をしなくちゃいけません。そのとき回れ右にするのか、左にするか。左回転で向こうを向くのか、右回転で向こうを向くのかは自分で決めましたね。それから最初の一步を右足から踏み出すのか、左足にするか、それもきっと自分で決めたでしょう。でも、それ以外は、全部あしなさい、こうしなさいで指示通り。けっこうこういうのが多いですね。

「先生、教科書を忘れました」「そうか、忘れたか」「はい、忘れました」「うん、だから?」「はい、忘れたんです」。ちっとも先に進みません。何かキーを押してくださいという、パソコンでキーを押さないで次に進まないような状態。「困らない?」「困ります」「どうする?」「貸してもらいます」「だれに」「A君に」「もう話つけたの」「まだです」「どうする?」「これからお願いします」。こんな感じでずっといく。

でもちょっと賢い子だと…、しまった、忘れちゃった。じゃあ、誰々に借りてこよう。たしか今日2組は理科があったはずだから、この時間借りられるはずだなんて言って借りてくるとかね。中には本人に断りもなく持ってきて、そのまま返さないというワルいやつもいますけれども、こんなふうになっている。自分で考えて対処する、こういうことができなくちゃいけない。

(7) 共感することと自分で決めさせること

最近の子どもたちは我慢ができなくなったと言いますが、本当にそうでしょうか。けっこう受験の問題などで我慢していると思いませんか。やりたいこと、遊びたいこと、我慢して遊んでいません。それから友だち関係でもけっこう窮屈です。皆さんが実習に行ったら子どもたちがどんなことで窮屈に思っ、どんなことで我慢しているか、もし一つでも二つでも三つでも見つけることができれば、これは大変大きな成果です。今の子どもたちは不安と向き合い、ものすごくいろいろなことを我慢してがんばっているんです。

だから自立のために自分で決めさせなくてはというふうに、子どもに全部つき返したら、子どもは自立の道を歩めません。だって、皆さんもそうでしょう。教育実習、失敗したらどうしようかと思っ、自分だけできなかったらどうしようかと思っ、自分だけできなかったらどうしようかと思っ、教壇に立ったときに子どもたちからそっぽを向かれたらどうしようかと思っ、失敗、とても不安じゃないですか。

今の中学生もみんな失敗しないかと不安に思っ、そしてテストの結果で、できる・できないで、自分が優秀か劣等かなんていうことまで示されたりしたら、もう救われません。さらに、お母さんやお父さんはでき

る自分を期待していると思えば、そうじゃない自分を見せるわけにはいかずすごく苦しんでしまいます。これから実習を前にして不安に思っている皆さんとまったく同じです。

そんなときに、自立のためには自己責任体験が必要だ。お前が頑張ればいい成果が出るし、いい成果が出なかったのは頑張らなかったから、お前の責任なんだよ。これも自立だよ、アハハハと言ったら困難に立ち向かえないでしょう。やっぱり不安だと思います。そんなときに皆さんだったら何が必要ですか。何がほしいですか。

NHK が昔、番組の中で企業戦士のお父さんにアンケートを採りました。何億円というプロジェクトを任されて、すごいストレスを感じているお父さん、家に帰って奥さんにかけてほしい言葉は何か。上司からはコストダウンを迫られて、部下からはこんなじゃやられてと言われて、いつまでにやれと言ったら、冗談じゃないとたたかれて、ちっとも思い通りにならない部下たち、上からはまたたたかれる。ストレスを感じて家に帰る。そんなとき奥さんにかけてほしい言葉は何かというものです。なんだと思いますか。

「頑張ってる」じゃありません。「あなたならできるワ」、これも違うそうです。「頼りにしてるワ」、これも違うそうです。さあ、何でしょう。今日は答えを言わないなんて言ったら眠れなくなっちゃうでしょうから、答えを言うておくことにしましょう。それは「わかるワ」という言葉だそうです。

皆さんが実習に行つて辛いこともあるかもしれせん。楽しいこともあるでしょう。そんなときにいちばんかけてほしい言葉、実家から行っている人は、うちに帰つてお父さんとかお兄さんに「それは、お前、プロになるんだから仕方がない。試練だ。ワハハハ」と言われたら、どうせわかってくれないんだとさっさと思うでしょうね。でも、ほとんど何もわからなくても、「大変ね。わかるワ」、こう

いうふうに言われたら、よしまた明日も頑張ろうと思うじゃないですか。子どもたちも同じです。子どもたちが自立の道、受験の問題、競争の問題、辛くても頑張っているのは、わかるよと言ってくれる、そういう存在です。これがあれば大丈夫です。

さあ、皆さんの行く中学校には、どんな「わかるワ」を必要とする関係が子どもたちの中にあるのでしょうか。そして、教師はどんな関係を子どもたちと作っているのでしょうか。皆さんはどうでしょうか。そんなふうに見てください。もし、子どもたちの現象面だけ見て、言うことを聞かない子どもたちの姿しか皆さんが見なければ、中学の教師は本当に大変で、もういいところがないです。だって「くそばばあ」「白髪」「ハゲ」「じじい」「消える」「うざい」とか言われるわけです。

でも言っている言葉の背景には、本当はオレだってすぐ授業に行きたいんだけど、行つたって授業わかんねえし、行けば先生から注意されるばかりだし、オレは授業行くのが辛いんだよという思い、そのことをわかってくれよ。だからあとちょっと遅らせて行きてえんだよなどという思いを、もし先生がくみ取ることができたとしたら、「死ね」と言われた言葉に対して、「なんだ、その態度は」というふうにはならないでしょうね。

私は、彼が「死ね」と言ったのに対しては、こう答えています。「死ね」…、「そのうちな」(笑)。「今すぐ死ね」「ムリ」「じじい」「なんだ、ガキ」。怒りますね。「ガキとはなんだ」

「何言つてんだよ、お前。じじいの反対語はガキつて決まってるじゃん。国語の先生に聞いてみるよ」なんて言いながら、「早く行けよ」と言つて自分の授業に行き、職員室に連絡をして、「〇〇君が今トイレにいますので、ちょっと様子見てください、話を聞いてあげてください」と言うようにしています。彼にも彼の行けない事情や、今すぐ踏み入れられない事情があるとしたら、ちょっとそれを受け止め

て待つてあげるということも意味があるんじゃないかなと思います。

自分で決めさせる。これは自立のために必要なことです。靴のひもが結べる。衣服の着脱ができる。こういうふうに分でできるようになっていかななくちゃならないことは体験させなきゃだめです。自分の頭で考えて行動する。アトムのようになるためには、子どもの頃にそういう体験をさせなくちゃいけません。でも、自分で考えて、自分で決めて責任も取るというのは、けっこうしんどい体験です。このしんどい体験を中学生は真っ向から受け止めてやろうとしています。

このしんどい時期を通り抜けるためには、どうしても必要なことが二つあります。その一つは甘やかさないということです。靴のひもを結んだりするのを、お父さんやって、お母さんやってと言うのは、もしやってあげるとそれは「甘やかす」でしょう。自分でやりなさいというのは、甘やかさないことでしょう。自分で考えなさいというのは甘やかさないことでしょう。だから思春期の課題の場合、親の言うとおりに行動させようとするのではなく、「あんたが決めるのよ」と言うのが甘やかさないことです。

でも、甘やかさない、つまりあなたが決めなさいというだけでは子どもは課題を乗り越えてはいけません。もう一つ必要なことがあります。さっきの「わかるワ」という支えです。その子の気持ちをわかってあげて一緒に歩いてあげる、受け止めてあげるということです。これは同じ甘いという字を書きけれども、甘えさせるということです。ぜひいっぱい話を聞いて、甘えさせてあげてください。

(8) 行動の裏にある「わけ」を知る

実習生として非常に難しいことの一つに、こうしたらいい、ああしたらいいということ指導教官の担当の先生を飛び越えてやるの

は、非常に問題が大きいということがあります。これは勝手にやっちゃいけない。でも、話を聞いてあげることにはきっとできるだろうと思います。何もしてあげられないけれども、聞いてあげることだけはできると思います。

子どもの行動には必ずわけがあります。それを物事の本質といいます。子どもが見せている姿の向こうにある背景、本質にあたる部分というのは、ちゃんと見てとらないといけない。現象だけ追っていたのでは、とても教育は進みません。ぜひ奥にあるものを見てとっていただきたいと思います。

皆さんがこれから出会う中学生、表面上のいい子、悪い子ということだけで付き合うのはやめたほうがいいでしょう。行動と向き合うと、憎たらしい中学生の姿が中学校にはあふれます。でも、内面と向き合うと愛おしい姿が見えてくるものです。

たとえば1時間目にいちばん前の席で、爆睡している女の子がいたとします。せっかく授業をこんなにやろうと思ってやってきたのにムカつくじゃないですか。そこで「そんなに眠いんだったら、家に帰って寝てくれば」と言ったら、帰るよって帰っちゃった。もっとムカつきますよね。

でも、その子に事情を聞いてみたら、その子はお兄ちゃんが行っていた進学塾に行けばお前も勉強ができるようになるだろうと言われて、親から進学塾に通うことを強制された。6時まで部活をやって、それから進学塾に行くと、7時から9時までがコースだと。ところが彼女は小学校の算数、分数の足し算ができない。だからとてもその進学塾にいても務まらない。

そうすると塾はさらに9時から11時まで補習授業をしてくれる。だから彼女は部活が終わって帰ってから7時から11時までずっと塾漬けです。帰ってすぐ寝られればいいのに、今日のドラマを撮っておいて、ビデオで見ておかないと明日の話についていけない

からそれをまた見なきゃならない。そうすると寝るのが 11 時、12 時、1 時、2 時になっちゃう。そうしたら次の日は眠い。これが朝から爆睡の理由だったのです。そして彼女は言った。「お兄ちゃんと違って、私バカだから」と言って自分を責めています。

中学生でとんでもない行動をする子の中には、こんなふうにして自分を責めている子がけっこういます。もし皆さんが行動とだけ向き合って、その行動をなんとかコントロールしようと思ったら、きっと憎たらしい子どもばかりに見えるでしょう。でも、もしその背景とつながることができれば、そこにはかわいい子どもがいっぱいいます。全員かわいいです。悪いことをする子はいても、悪い子なんて一人もいないんです。それが中学校です。ぜひそのことを見てきてほしいなと思います。

(9) 本当の勉強のおもしろさを

中学校の授業の現実ということに触れてみたいと思います。皆さんが今法政大学で授業を受けているときに、一人ひとりが本当に先生と LAN のような回線をつないで授業をやってきましたか？ 先生の方は一生懸命皆さんにメッセージを送っているんだけど、皆さんのほうは回線のスイッチを切って、今は寝る時間とか、今はメールの時間と勝手にやっている人いたでしょう。同じように中学でもそういう子はいます。こういう子にどうやってそのスイッチを入れさせるかというのは、けっこうベテランでも大変です。

理科の場合は鳴り物、光り物というのはけっこう人目を引きますね。爆発させたり、バーッと光を出したり、びっくりさせると、みんなこっち向きますからね。でも、そういうものがないときには、どういうふうにして LAN 回線をつなぐのかというのは、これはけっこうベテランでも至難のわざです。だから皆さんの場合、もしできなかったとしても、

自分を責めないほうがいいかもしれません。

それから子どもたちにとって勉強とは何なのかということも問われます。皆さんにとって勉強とは何ですか。何のために勉強してきましたか？ 私は学ぶことが楽しかったです。理科のこと、いろいろな自然科学のことについて関心を持って勉強するのは楽しかったです。でも、今中学生はどうなのでしょう。皆さんはどうだったのでしょうか。受験のため？ じゃあ、受験から下りちゃった子はやらなくてもオッケーだね。

ある先生はこんなことを言いましたよ。子どもに言うことを聞かせる方法は三つある。一つは脅し、暴力で脅す、言葉で脅す。それから何々しないとこうなるぞって言って脅す。もう一つは利益誘導、何々したらケータイ買ってあげるからねとか、これができたら成績上がるよとか。でも、この脅しも利益誘導も、何々したらこれしてあげるよ、何々したらこうだからねという「罰」や「エサ」の方に意味がなくなっちゃったら何も通用しないですよ。

昔、私が担当していた子が暴走族にあこがれていて、ちっとも勉強しないで、バイクばかり乗っていました。「お前さ、族やるのもいいけどさ、字くらい書けなきゃまずいだろう、名前とか。免許取れなかったら困るじゃん」

「先生よう、族には免許は要らねえんだよ。あっても取り上げられる」(笑)、それはそうだな。「けどお前さ、計算くらいできなかつたらさ、おつりの計算とか困るだろう」「先生よう、計算なら電卓っちゅうもんがあるんだよ」。こういうふうになってくると、脅しも利益誘導もさっぱり効果ないんですよ。何のための勉強か。これは脅しや利益誘導じゃなくて、ちゃんと勉強のおもしろさを教えることが必要だと思います。

今困難な子どもとの関係に「心が通じあわない」というのがありますが、もし子どもが「うるせえ」と言ったら、「今ちよっと待って

て」と言っているんだと、自分の中で翻訳こんにやくで翻訳できるといいですよ。そしてうまい言葉で切り返す。

(10)「たかが3週間、されど3週間」

教育実習を100倍有意義にするために、というお話ですが、それはとにかく実習期間を通じて学校現場を知ることです。今の学校は、皆さんの知っている「学校」じゃないかもしれません。子どもの状況も違うし、今年から中学校は新学習指導要領が本格実施されます。だから皆さんの中学時代とは違います。さあ、どこが違うか見てきてください。

子どものナマの姿は、「今どきの子どもはこうなんだ」というマスコミで報道されているものと同じなのでしょう、違うのでしょうか。よく見てきてください。それから教室で授業を通して見せる姿だけが子どもの真実ではありません。たとえば放課後、授業が終わってさよならと挨拶をしたあと、皆さんはすぐに職員室、実習生室に戻ってはいけません。一緒に掃除をやってください。掃除をやるのも、さっさと掃除終わらせて自分のところに帰りたいたいと思っちゃいけません。おしゃべりのチャンスです。しみじみ語ってください。教室で見せる姿だけが子どもの姿ではありません。全然違う姿を子どもたちは見せます。昼休みがおもしろいです。昼休みもできれば子どもたちの中に一緒にいてください。

それから、先生の授業を大いに見てください。どんなふうに行っているのか。板書だけではありません。先生の立ち位置だってけっこう大きい。ここ（教壇の中央）でしゃべるだけが授業ではありません。向こう側の生徒に当てるときには、こちら側に来て当てれば斜めに対角線で声が届く。こちら側の生徒に当てるときは、まるでバスケットボールの主審と副審がうまく動いているような、そんな感じが、たとえばTTの授業などではあるか

もしれません。そういうものも見てきてください。

子どもとかかわるということは子どもを理解するという営みです。理解するということはかかわるということです。皆さんは人を知るときに、まずじっと顔を見ますね。こいつはこういう顔をしている。こういう声をしている。よく見ます。それから、触ったら手が温かいと思います。でも、本当にその人のことを理解するには、なんらかの働きかけをして、その働きかけに対して、こういうふうに戻ってきて、そのことでその人を理解していきます。子どもを理解するということは、子どもに働きかけることです。

ただし、気をつけなくてはいけないのは、人間、とくに子ども（中学生）は壊れ物です。だから相手の状況を見てどういった働きかけをすればいいかということを考えて働きかけしないと、壊れてしまいます。言葉をかけたり、何かを要求したりするのは、野球のキャッチボールみたいなものです。私が子どもたちとキャッチボールするのだったら、そんなに大変ではないけれども、イチローとキャッチボールして、イチローが本気で投げたら、私はそのボールを捕ることができません。壊れちゃいます。皆さんが子どもとキャッチボールをするときには、その子はどういうボールだったら取れるかなというふうを考えながら、きっとボールを投げると思いますが、子ども理解のためのかかわり方も同じです。

ラーメンを作るだけがラーメン屋さんの仕事じゃない。世の中のお役人の中には、教師の仕事というのは授業をやることだと思っている人がいます。それはそうです。しかし授業をするためには、その何倍にも及ぶ準備が必要です。ラーメン屋さんの仕事は、お客さんが来て、「はい、一丁」とやるときだけがラーメン屋さんの仕事ではなくて、仕込みがあるでしょう。それからもっとおいしいラーメンにするために研究もあるでしょう。授業準備

備や研究、先生たちは、それをいつどこでやっているんだろう。そんなことも見てきてもらえたらいいんじゃないかなと思います。

何時間目の理科の授業、何時間目の社会の授業、それから学活、それだけではなくて、そこに至るまでの準備、そしてそこから得られたものの整理、そこからの分析、そういうものに先生たちはどんなふうにも力を注いでいるか、見てきてください。

このやり方だったら子どもは育たないと、違和感を持つこともあるかもしれません。でも、皆さんはプロじゃありません。その学校に責任を負わなくていいんです。だから、その学校のやり方が間違えていたからといって直す義務はないんです。そのとおりに見てきてください。それが勉強です。そして、もしやりたいことがあったら、勝手にやらないで指導担当の先生に話してみてください。何々を学びたいんですけど。部活行って見てきたいんですけど。お掃除一緒に手伝ってもいいですか。昼休み一緒に遊びたいんですけど。何々できますか。こういうふうにしたければ、どうすればいいのでしょうか。こんなことをやってみてほしいです。一声かけて相談してください。そして、もしその先生が、そうだね、こういうふうにやってみてごらんと言ってくれば、その結果については、その先生も一緒に責任を負ってくれます。勝手にやれば、お前が勝手にやったことじゃないかとなります。また、何もしないでいれば、この実習生はやる気がないんじゃないかと思われまう。だからぜひあんなこともやってみて、こんなこともやってみてというのをいっぱい持って実習に臨んでください。そして指導担当の先生を大いに活かしてください。

さっきいちばん最初に「実習生は迷惑だ」なんていう言葉を使いましたが、その迷惑は実習生の皆さんが一生懸命やってくれば全部キャラになります。どんなに大きい-100でも、皆さんが誠実に一生懸命やれば、(-

100) × (-1) = (+100) で、大きなプラスになります。それは学級の子どもや授業をした子どもたちにもきっとプラスに影響するはずですよ。

3週間の実習、失敗していいじゃないですか。私たちは教師になってからでもずっと失敗を重ねてきているんですから、ましてや皆さんはまだ給料をもらうプロじゃないです。学びに行くんですから、大いに学んできてほしいなと思います。ぜひ100倍楽しんできてもらいたいと思います。もしうちの学校に来る人がいたら大歓迎です。声をかけてください。これでお話を終わります。ありがとうございました。(拍手)